

## 寒川町地域福祉計画・寒川町社会福祉協議会地域福祉活動計画策定に関する町民アンケート結果

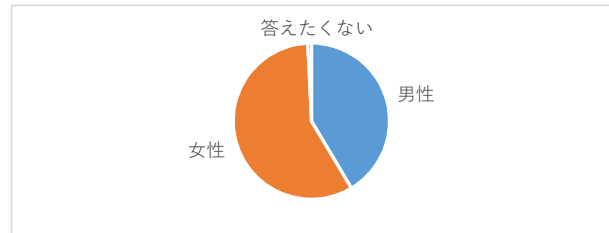
- (調査対象者) 寒川町在住の方から、18歳以上の方、1,200人を無作為に抽出  
 (調査方法) 郵送による配布、紙回収及び電子申請  
 (調査期間) 令和6年1月11日～1月31日  
 (回収率) 33.6% (403件/1,200件) ※紙による回答：328件 (81.4%)、電子による回答：75件 (18.6%)

※集計結果を見る上での注意事項

- (1)集計結果のグラフは、紙面の都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合がある。  
 (2)無効票は内訳に含まれていない。  
 無効票の例：一つしか選べない設問に対して、複数回答している場合等  
 (3)無効票があるため、合計が回答者数と一致しない場合がある。

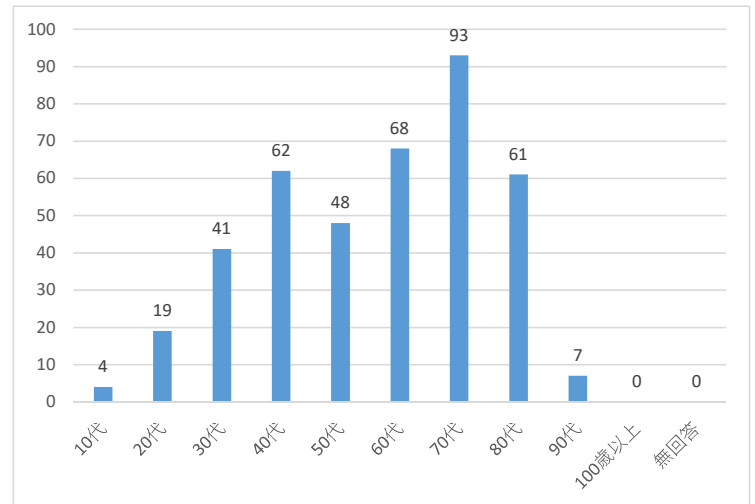
問1.あなたの性別について、お知らせください。

内訳		構成比
男性	167	41.4%
女性	233	57.8%
答えたくない	3	0.7%
計	403	100%



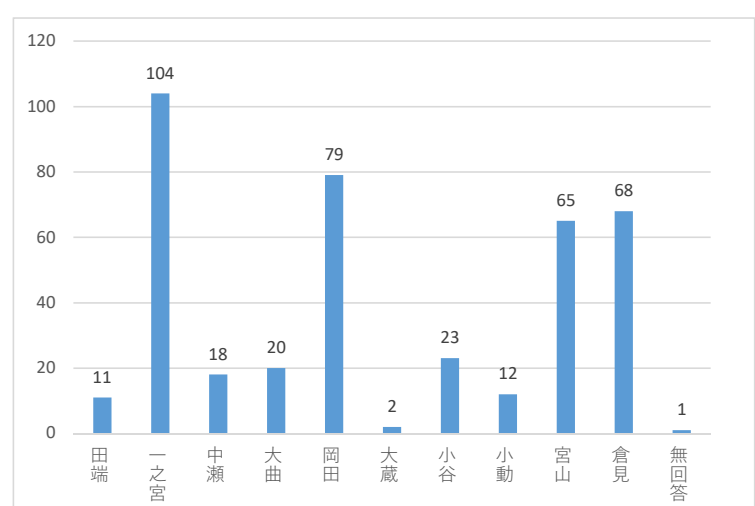
問2.あなたの年代について、お知らせください。

内訳		構成比
10代	4	1.0%
20代	19	4.7%
30代	41	10.2%
40代	62	15.4%
50代	48	11.9%
60代	68	16.9%
70代	93	23.1%
80代	61	15.1%
90代	7	1.7%
100歳以上	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	403	100%



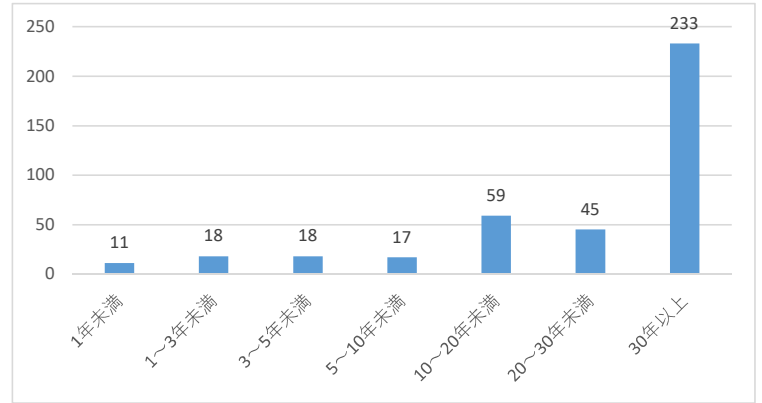
問3.あなたの住んでいる地区について、お知らせください。

内訳		構成比
田端	11	2.7%
一之宮	104	25.8%
中瀬	18	4.5%
大曲	20	5.0%
岡田	79	19.6%
大蔵	2	0.5%
小谷	23	5.7%
小動	12	3.0%
宮山	65	16.1%
倉見	68	16.9%
無回答	1	0.2%
計	403	100%



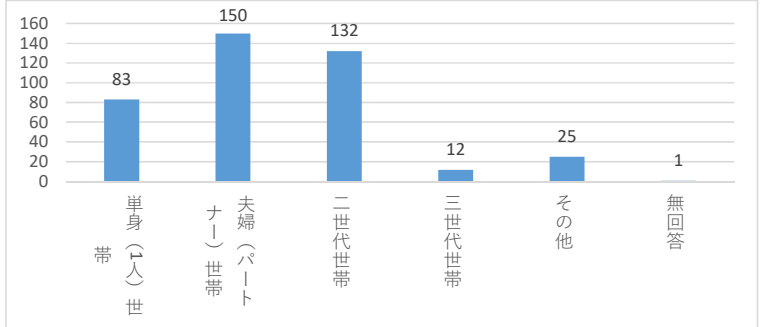
問4.寒川町にお住まいの年数について、お知らせください。

内訳		構成比
1年未満	11	2.7%
1～3年未満	18	4.5%
3～5年未満	18	4.5%
5～10年未満	17	4.2%
10～20年未満	59	14.6%
20～30年未満	45	11.2%
30年以上	233	57.8%
無回答	2	0.5%
計	403	100%



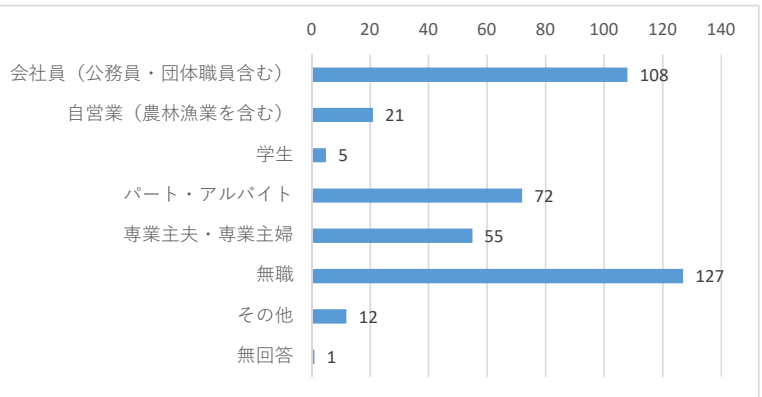
問5.あなたの家族構成について、お知らせください。

内訳		構成比
単身（1人）世帯	83	20.6%
夫婦（パートナー）世帯	150	37.2%
二世帯世帯	132	32.8%
三世帯世帯	12	3.0%
その他	25	6.2%
無回答	1	0.2%
計	403	100%



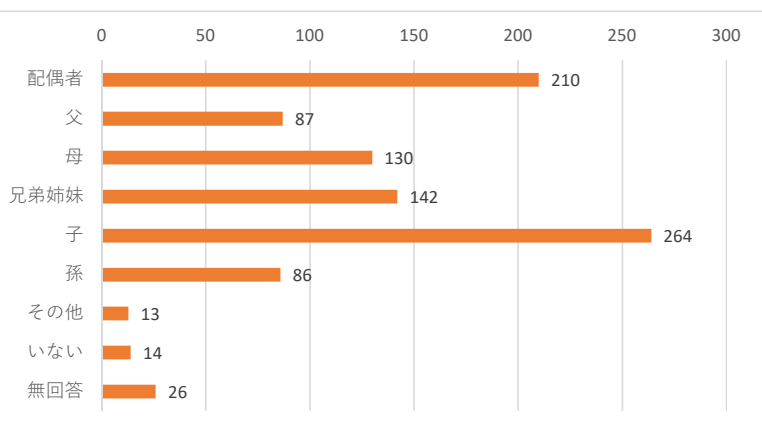
問6.あなたの職業について、お知らせください。

内訳		構成比
会社員（公務員・団体職員含む）	108	26.9%
自営業（農林漁業を含む）	21	5.2%
学生	5	1.2%
パート・アルバイト	72	18.0%
専業主夫・専業主婦	55	13.7%
無職	127	31.7%
その他	12	3.0%
無回答	1	0.2%
計	401	100%



問7.あなたと、日常的につながりがある家族（別居の方も含まます）について、お知らせください。（複数回答可）

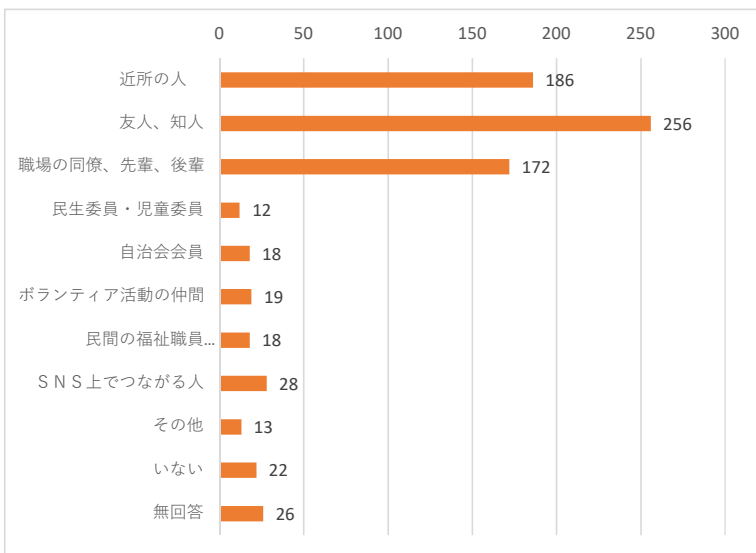
内訳		構成比
配偶者	210	21.6%
父	87	9.0%
母	130	13.4%
兄弟姉妹	142	14.6%
子	264	27.2%
孫	86	8.8%
その他	13	1.3%
いない	14	1.4%
無回答	26	2.7%
計	972	100%



「配偶者」が約2割、「子」が約3割であり、併せて約5割を占めています。

問8.あなたと、日常的につながりがある家族以外の人について、お知らせください。（複数回答可）

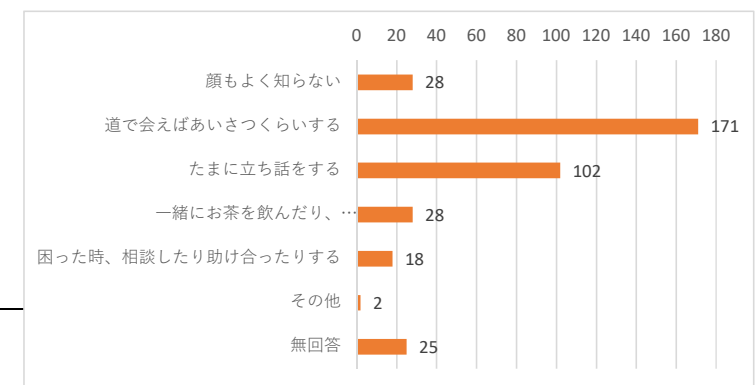
内訳	人数	構成比
近所の人	186	24.2%
友人、知人	256	33.2%
職場の同僚、先輩、後輩	172	22.3%
民生委員・児童委員	12	1.6%
自治会会員	18	2.3%
ボランティア活動の仲間	19	2.5%
民間の福祉職員 (ケアマネジャー・相談支援専門員等)	18	2.3%
SNS上でつながる人	28	3.6%
その他	13	1.7%
いない	22	2.9%
無回答	26	3.4%
計	770	100%



「友人、知人」「近所の人」「職場の同僚、先輩、後輩」が約8割を占めています。

問9.あなたは、隣近所と普段どのようなつき合い方をしていますか。（○は1つ）

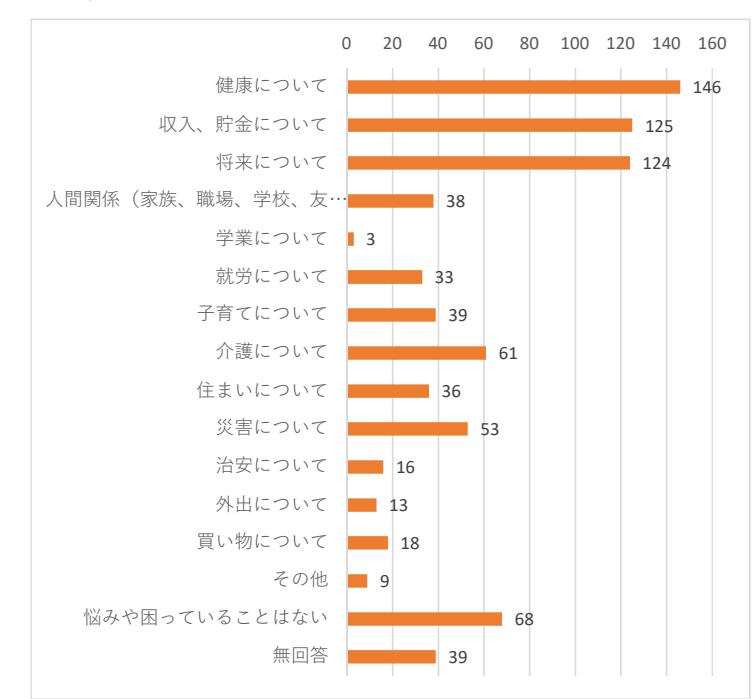
内訳	人数	構成比
顔もよく知らない	28	7.5%
道で会えばあいさつくらいする	171	45.7%
たまに立ち話をする	102	27.3%
一緒にお茶を飲んだり、 気の合った人と親しくしたりしている	28	7.5%
困った時、相談したり助け合ったりする	18	4.8%
その他	2	0.5%
無回答	25	6.7%
計	374	100%



前回同様、「道で会えばあいさつくらいする」「たまに立ち話をする」が多く、併せて7割以上を占めています。隣近所を認識し、多少のコミュニケーションをとっている方が多いと考えられます。

問10.あなたは、今抱えている悩みや困っていることがありますか。（複数回答可）

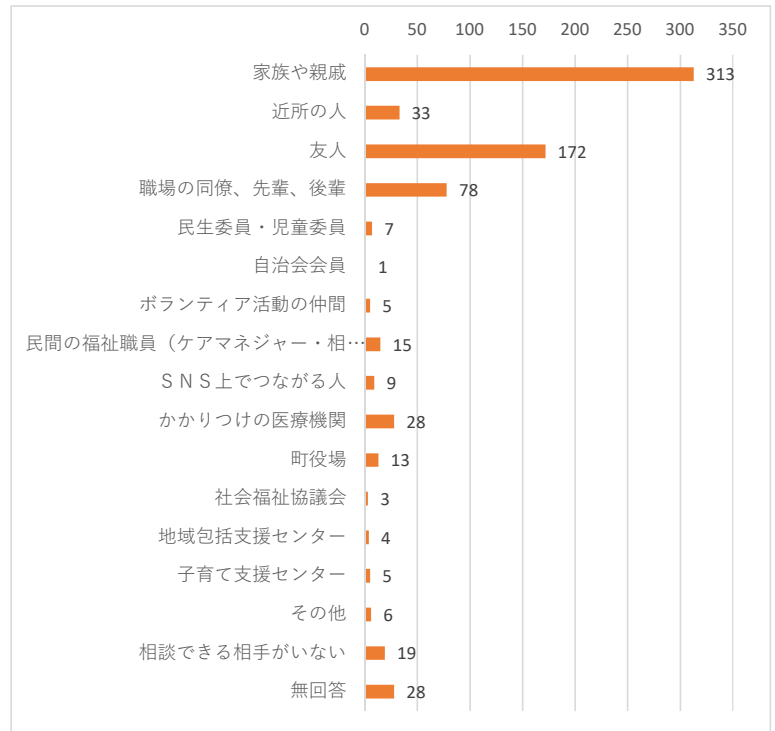
内訳	人数	構成比
健康について	146	17.8%
収入、貯金について	125	15.2%
将来について	124	15.1%
人間関係（家族、職場、学校、友人、近所の人等）について	38	4.6%
学業について	3	0.4%
就労について	33	4.0%
子育てについて	39	4.8%
介護について	61	7.4%
住まいについて	36	4.4%
災害について	53	6.5%
治安について	16	1.9%
外出について	13	1.6%
買い物について	18	2.2%
その他	9	1.1%
悩みや困っていることはない	68	8.3%
無回答	39	4.8%
計	821	100%



前回に引き続き、「健康」が多いが、今回は「収入、貯金」「将来」が増加しています。昨今の物価高に苦しみ、先行き不安な状況が垣間見えます。

問11.あなたが、悩みや困ったことを相談する相手は誰ですか。（複数回答可）

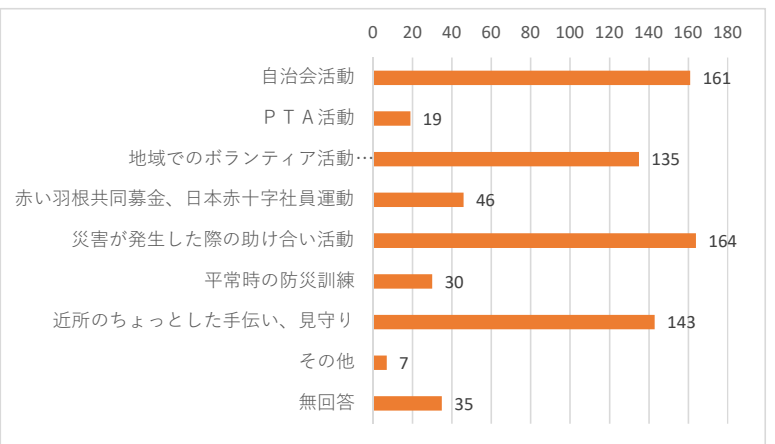
内訳	人数	構成比
家族や親戚	313	42.4%
近所の人	33	4.5%
友人	172	23.3%
職場の同僚、先輩、後輩	78	10.6%
民生委員・児童委員	7	0.9%
自治会会員	1	0.1%
ボランティア活動の仲間	5	0.7%
民間の福祉職員（ケアマネジャー・相談支援専門員等）	15	2.0%
SNS上でつながる人	9	1.2%
かかりつけの医療機関	28	3.8%
町役場	13	1.8%
社会福祉協議会	3	0.4%
地域包括支援センター	4	0.5%
子育て支援センター	5	0.7%
その他	6	0.8%
相談できる相手がいない	19	2.6%
無回答	28	3.8%
計	739	100%



前回同様、「家族や親戚」が多く、相談相手が限定的です。

問12.あなたは、地域の「ささえあい」という言葉から、どのような活動を思い浮かべますか。（複数回答可）

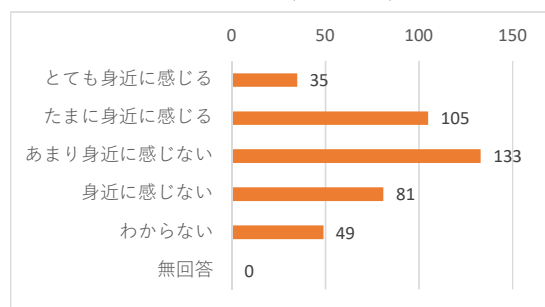
内訳	人数	構成比
自治会活動	161	21.8%
P T A 活動	19	2.6%
地域でのボランティア活動 (高齢、障がい、子ども等を対象にしたサロン、見守り、体操等)	135	18.2%
赤い羽根共同募金、日本赤十字社員運動	46	6.2%
災害が発生した際の助け合い活動	164	22.2%
平常時の防災訓練	30	4.1%
近所のちょっとした手伝い、見守り	143	19.3%
その他	7	0.9%
無回答	35	4.7%
計	740	100%



近年頻発している地震の影響を受け、「災害が発生した際の助け合い活動」が想起されやすく、最も多くなっていると考えられます。

問13.あなたは、自らが住んでいる地域で「ささえあい」が行われていることを身近に感じていますか。（○は1つ）

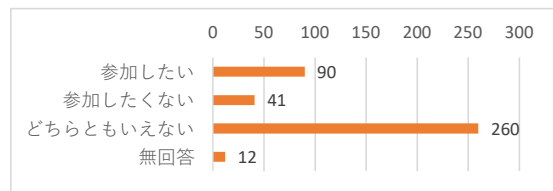
内訳	人数	構成比
とても身近に感じる	35	8.7%
たまに身近に感じる	105	26.1%
あまり身近に感じない	133	33.0%
身近に感じない	81	20.1%
わからない	49	12.2%
無回答	0	0.0%
計	403	100%



「感じない」が半数以上を占めており、地域におけるつながりの希薄化が読み取れます。

問14.あなたは、地域での「ささえあい」の活動に参加したいと思いますか。(〇は1つ)

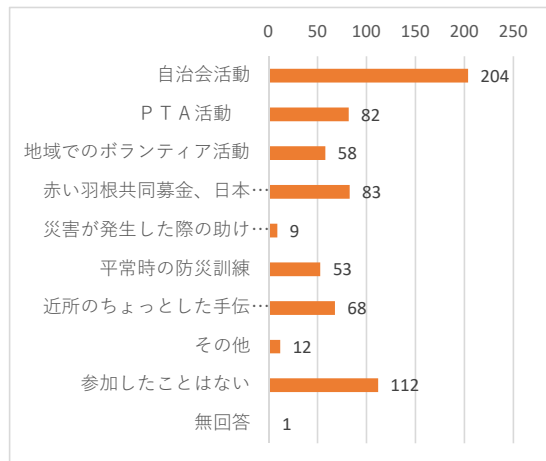
内訳	人数	構成比
参加したい	90	22.3%
参加したくない	41	10.2%
どちらともいえない	260	64.5%
無回答	12	3.0%
計	403	100%



「どちらともいえない」が6割以上を占めています。

問15.あなたは、以下のような地域のささえあい活動に参加したことがありますか。(複数回答可)

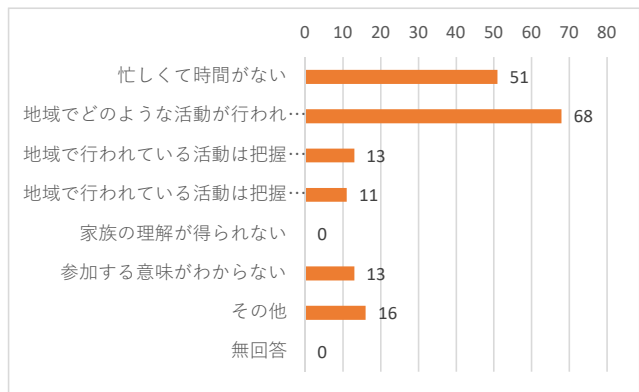
内訳	人数	構成比
自治会活動	204	29.9%
P T A 活動	82	12.0%
地域でのボランティア活動	58	8.5%
赤い羽根共同募金、日本赤十字社員運動	83	12.2%
災害が発生した際の助け合い活動	9	1.3%
平常時の防災訓練	53	7.8%
近所のちょっとした手伝い、見守り	68	10.0%
その他	12	1.8%
参加したことはない	112	16.4%
無回答	1	0.1%
計	682	100%



「自治会活動」が最も多いです。「災害が発生した際の助け合い活動」は、問12において最も多く思い浮かべる活動であったにもかかわらず、参加の経験は最も少ないです。

問16.(問15で「参加したことはない」と回答した方に伺います)あなたが、地域のささえあい活動に参加しない理由は何ですか。(複数回答可)

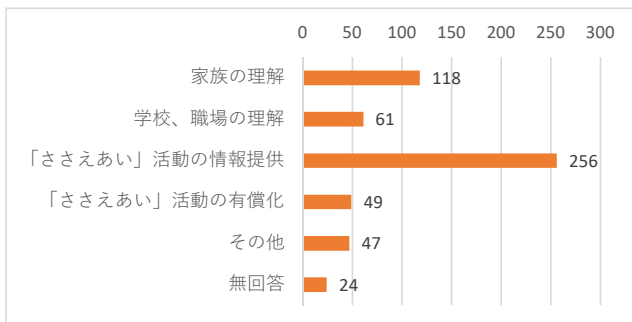
内訳	人数	構成比
忙しくて時間がない	51	29.7%
地域でどのような活動が行われているのか、わからない	68	39.5%
地域で行われている活動は把握しているが、自分が参加できる活動がない	13	7.6%
地域で行われている活動は把握しているが、どうやって参加したらよいかわからない	11	6.4%
家族の理解が得られない	0	0.0%
参加する意味がわからない	13	7.6%
その他	16	9.3%
無回答	0	0.0%
計	172	100%



「地域でどのような活動が行われているのか、わからない」が最も多いです。

問17.あなたは、地域での「ささえあい」の活動へ参加するために必要なことは、何だと思えますか。(複数回答可)

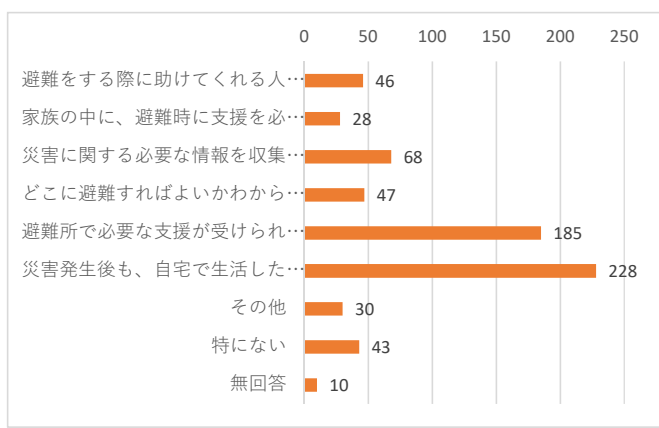
内訳	人数	構成比
家族の理解	118	21.3%
学校、職場の理解	61	11.0%
「ささえあい」活動の情報提供	256	46.1%
「ささえあい」活動の有償化	49	8.8%
その他	47	8.5%
無回答	24	4.3%
計	555	100%



「ささえあい活動の情報提供」が最も多く、問16においても活動に参加しない最大の理由が「活動がわからない」であり、周知不足が考えられます。

問18.あなたは、災害が発生した場合、不安に思っていることがありますか。（複数回答可）

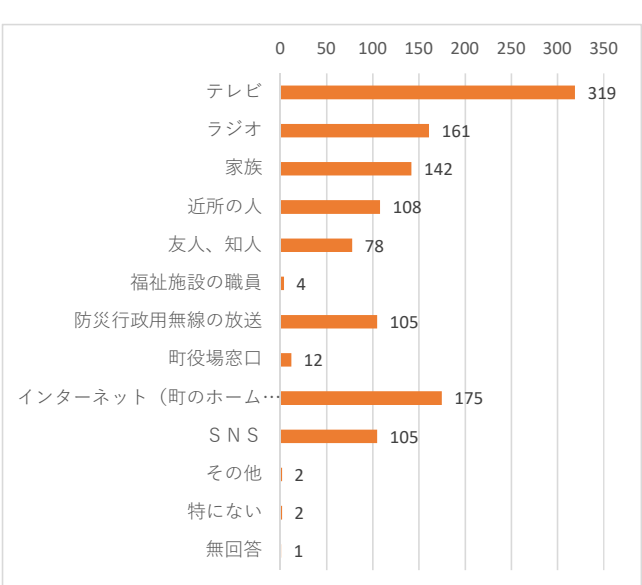
内訳	件数	構成比
避難をする際に助けてくれる人がいない	46	6.7%
家族の中に、避難時に支援を必要とする者がいるが、支援を受けることができるか	28	4.1%
災害に関する必要な情報を収集することができない	68	9.9%
どこに避難すればよいかわからない	47	6.9%
避難所で必要な支援が受けられるかわからない	185	27.0%
災害発生後も、自宅で生活したいが、支援物資などが届くか	228	33.3%
その他	30	4.4%
特になし	43	6.3%
無回答	10	1.5%
計	685	100%



避難先（自宅を含む）での支援に対する不安が半数以上を占めています。

問19.あなたは、災害が発生した場合にどこから情報収集しますか。（複数回答可）

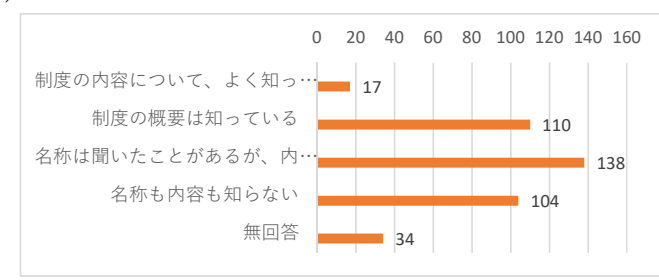
内訳	件数	構成比
テレビ	319	26.3%
ラジオ	161	13.3%
家族	142	11.7%
近所の人	108	8.9%
友人、知人	78	6.4%
福祉施設の職員	4	0.3%
防災行政用無線の放送	105	8.6%
町役場窓口	12	1.0%
インターネット（町のホームページ等）	175	14.4%
SNS	105	8.6%
その他	2	0.2%
特になし	2	0.2%
無回答	1	0.1%
計	1,214	100%



「テレビ」と「インターネット」の比率が高く、併せて4割を超えています。

問20.あなたは、「法定後見制度」のことを知っていますか。（○は1つ）

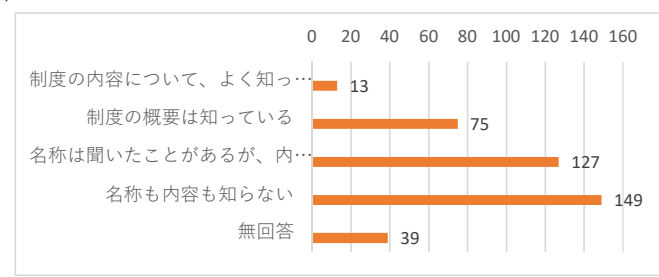
内訳	件数	構成比
制度の内容について、よく知っている	17	4.2%
制度の概要は知っている	110	27.3%
名称は聞いたことがあるが、内容は知らない	138	34.2%
名称も内容も知らない	104	25.8%
無回答	34	8.4%
計	403	100%



「知らない」が半数以上を占めており、周知が必要です。

問21.あなたは、「任意後見制度」のことを知っていますか。（○は1つ）

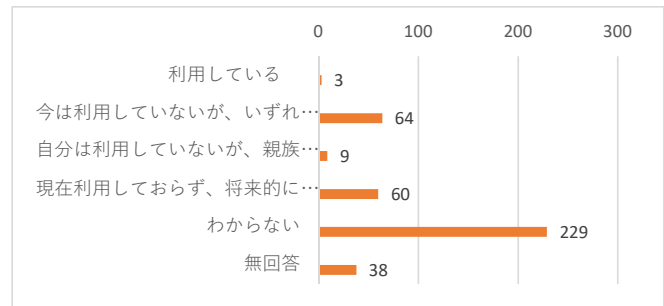
内訳	件数	構成比
制度の内容について、よく知っている	13	3.2%
制度の概要は知っている	75	18.6%
名称は聞いたことがあるが、内容は知らない	127	31.5%
名称も内容も知らない	149	37.0%
無回答	39	9.7%
計	403	100%



問20よりもさらに高い割合で「知らない」となっており、やはり周知が必要です。

問22.あなたは、「法定後見制度」に基づく支援を利用していますか。(○は1つ)

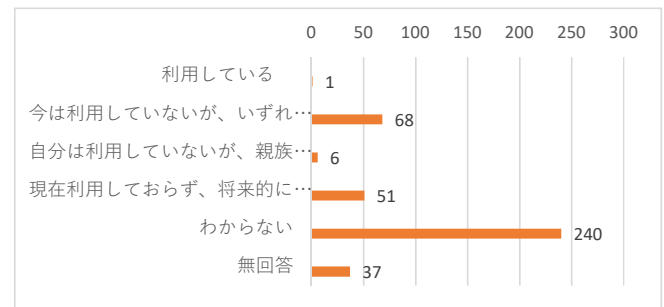
内訳		構成比
利用している	3	0.7%
今は利用していないが、いずれ利用したい	64	15.9%
自分は利用していないが、親族等が利用している	9	2.2%
現在利用しておらず、将来的にも利用しない	60	14.9%
わからない	229	56.8%
無回答	38	9.4%
計	403	100%



「わからない」が約6割を占めています。問20において「知らない」が半数以上であったことが関係していると考えられます。

問23.あなたは、「任意後見制度」に基づく支援を利用していますか。(○は1つ)

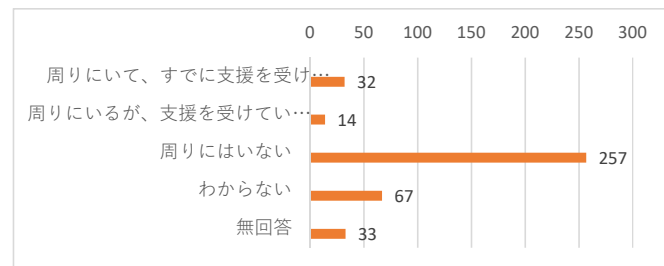
内訳		構成比
利用している	1	0.2%
今は利用していないが、いずれ利用したい	68	16.9%
自分は利用していないが、親族等が利用している	6	1.5%
現在利用しておらず、将来的にも利用しない	51	12.7%
わからない	240	59.6%
無回答	37	9.2%
計	403	100%



「わからない」が約6割を占めています。問21において「知らない」が半数以上であったことが関係していると考えられます。

問24.あなたの周りに、認知症や障がい等の理由により、金銭管理等の日常生活に支援が必要な人はいますか。(○は1つ)

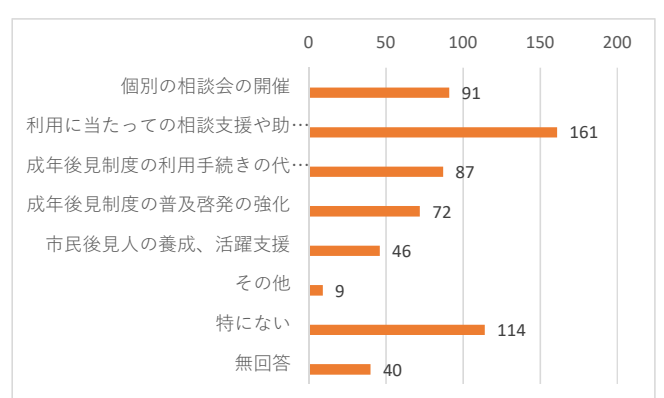
内訳		構成比
周りにいて、すでに支援を受けている	32	7.9%
周りにいるが、支援を受けていない	14	3.5%
周りにはいない	257	63.8%
わからない	67	16.6%
無回答	33	8.2%
計	403	100%



「周りにはいない」が6割以上を占めています。

問25.あなたが、成年後見制度の利用促進に当たって町に期待することは何ですか。(複数回答可)

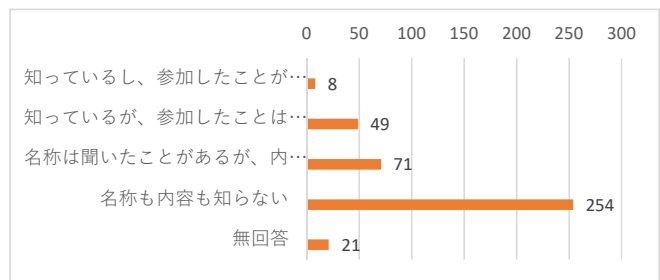
内訳		構成比
個別の相談会の開催	91	14.7%
利用に当たっての相談支援や助成制度の充実	161	26.0%
成年後見制度の利用手続きの代行支援	87	14.0%
成年後見制度の普及啓発の強化	72	11.6%
市民後見人の養成、活躍支援	46	7.4%
その他	9	1.5%
特にない	114	18.4%
無回答	40	6.5%
計	620	100%



「利用に当たっての相談支援や助成制度の充実」が約3割を占めています。

問26.あなたは、「社会を明るくする運動」のことを知っていますか。(○は1つ)

内訳	人数	構成比
知っているし、参加したことがある	8	2.0%
知っているが、参加したことはない	49	12.2%
名称は聞いたことがあるが、内容は知らない	71	17.6%
名称も内容も知らない	254	63.0%
無回答	21	5.2%
計	403	100%

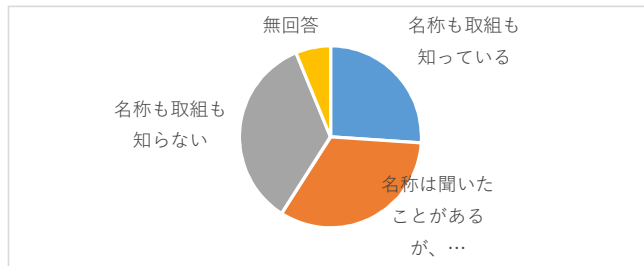


「知らない」が約8割を占めている。周知が必要です。

問27.あなたは、次の更生保護関係者や行っている取組について知っていますか。(○はそれぞれ1つ)

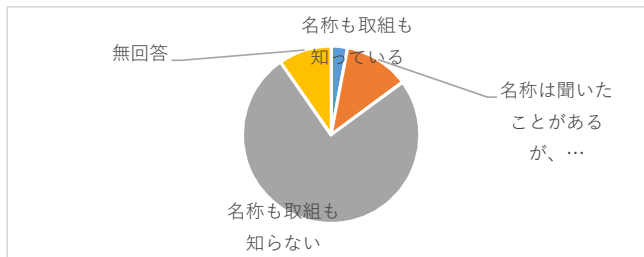
・保護司

内訳	人数	構成比
名称も取組も知っている	105	26.1%
名称は聞いたことがあるが、取組は知らない	133	33.0%
名称も取組も知らない	140	34.7%
無回答	25	6.2%
計	403	100%



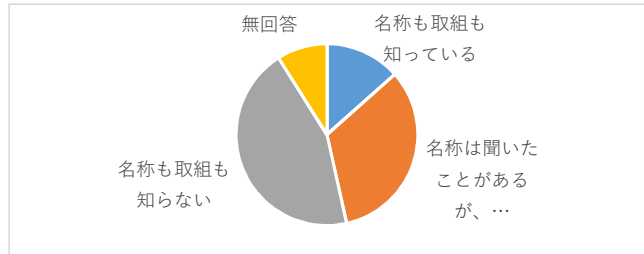
・更生保護女性会員

内訳	人数	構成比
名称も取組も知っている	12	3.0%
名称は聞いたことがあるが、取組は知らない	48	11.9%
名称も取組も知らない	304	75.4%
無回答	39	9.7%
計	403	100%



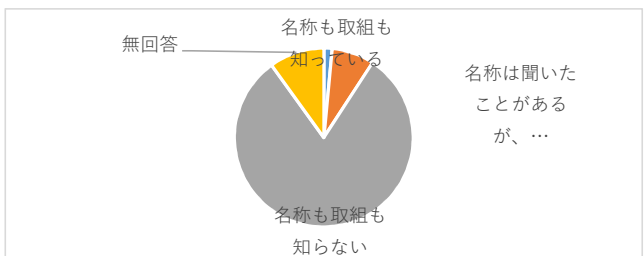
・更生保護施設

内訳	人数	構成比
名称も取組も知っている	54	13.4%
名称は聞いたことがあるが、取組は知らない	133	33.1%
名称も取組も知らない	179	44.5%
無回答	36	9.0%
計	402	100%



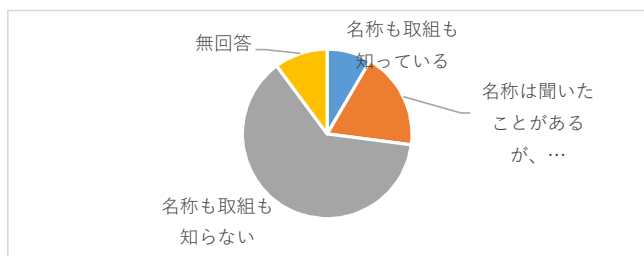
・BBS会

内訳	人数	構成比
名称も取組も知っている	6	1.5%
名称は聞いたことがあるが、取組は知らない	31	7.7%
名称も取組も知らない	325	80.8%
無回答	40	10.0%
計	402	100%



・協力雇用主

内訳	人数	構成比
名称も取組も知っている	34	8.4%
名称は聞いたことがあるが、取組は知らない	75	18.6%
名称も取組も知らない	253	62.8%
無回答	41	10.2%
計	403	100%

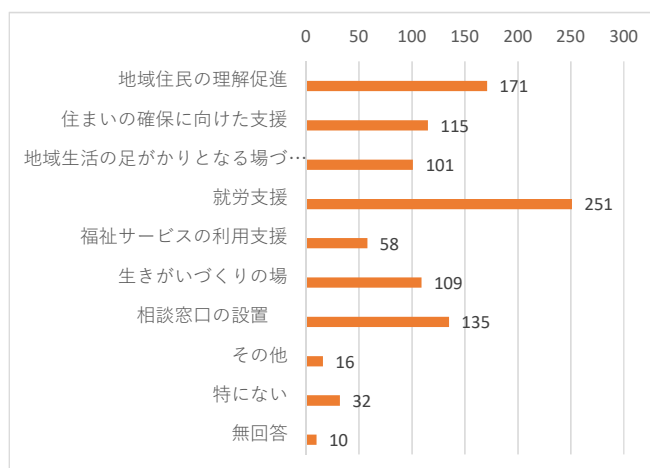


「知らない」が半数以上を占めている。周知が必要です。



問28. 罪を犯した人が、再び罪を犯さずに、地域で暮らしていくために、行政を含めた地域全体でサポートできることは、どんなことだと思いますか。（複数回答可）

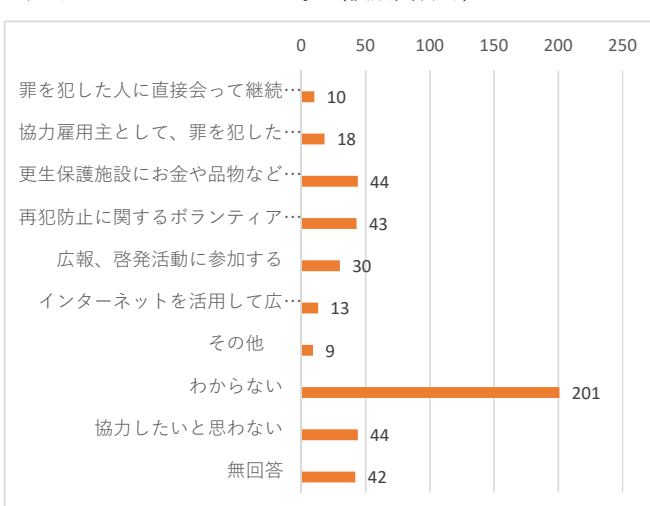
内訳	件数	構成比
地域住民の理解促進	171	17.1%
住まいの確保に向けた支援	115	11.5%
地域生活の足がかりとなる場づくり	101	10.1%
就労支援	251	25.2%
福祉サービスの利用支援	58	5.8%
生きがいづくりの場	109	10.9%
相談窓口の設置	135	13.5%
その他	16	1.6%
特になし	32	3.2%
無回答	10	1.0%
計	998	100%



「就労支援」が最も多く、約3割を占めている。

問29. 罪を犯した人の立ち直りに対してあなたが協力する場合、どのような協力をしたいと思いますか。（複数回答可）

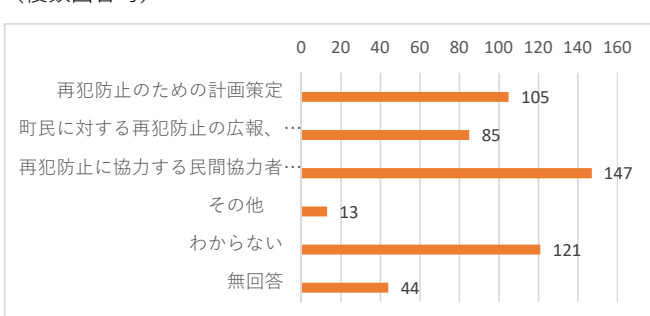
内訳	件数	構成比
罪を犯した人に直接会って継続的に助言や援助をする	10	2.2%
協力雇用主として、罪を犯した人を雇用する	18	4.0%
更生保護施設にお金や品物などを寄付する	44	9.7%
再犯防止に関するボランティア活動に参加する	43	9.5%
広報、啓発活動に参加する	30	6.6%
インターネットを活用して広報、啓発活動の情報を発信する	13	2.9%
その他	9	2.0%
わからない	201	44.3%
協力したいと思わない	44	9.7%
無回答	42	9.3%
計	454	100%



「わからない」が4割以上を占めています。更生保護や再犯防止についての認知度を高める必要があると考えます。

問30. 再犯防止のために行政が取り組むべきものは、何だと思いますか。（複数回答可）

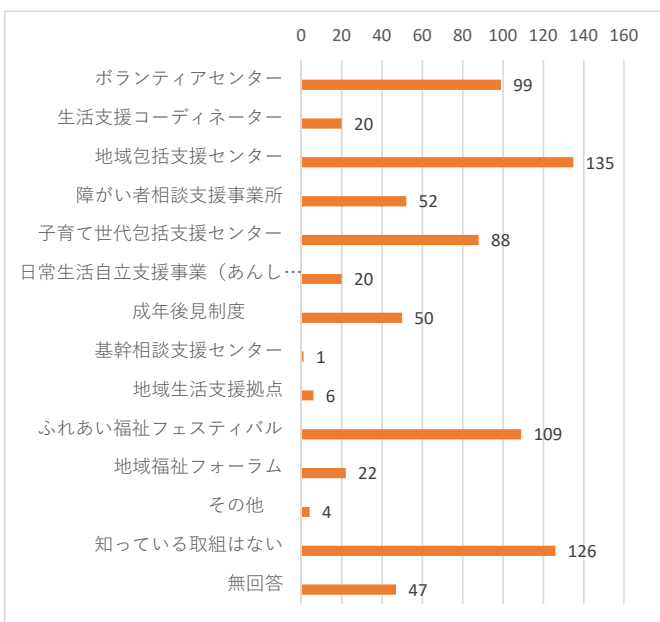
内訳	件数	構成比
再犯防止のための計画策定	105	20.4%
町民に対する再犯防止の広報、啓発活動	85	16.5%
再犯防止に協力する民間協力者に対する活動支援	147	28.5%
その他	13	2.5%
わからない	121	23.5%
無回答	44	8.5%
計	515	100%



「再犯防止に協力する民間協力者に対する活動支援」が若干多く、約3割を占めています。

問31.「寒川町みんなの地域福祉つながりプラン」の取組で知っているものを選んでください。(複数回答可)

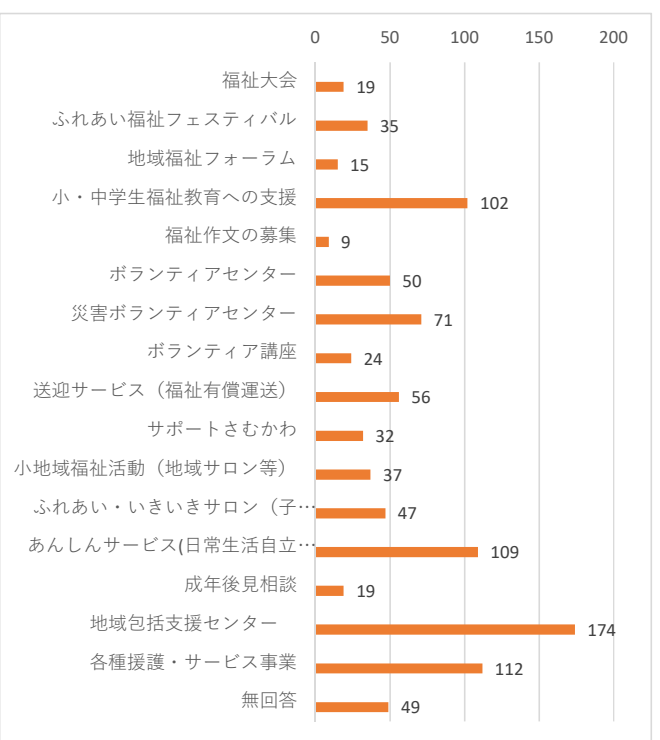
内訳	件数	構成比
ボランティアセンター	99	12.7%
生活支援コーディネーター	20	2.6%
地域包括支援センター	135	17.3%
障がい者相談支援事業所	52	6.7%
子育て世代包括支援センター	88	11.3%
日常生活自立支援事業(あんしんサービス)	20	2.6%
成年後見制度	50	6.4%
基幹相談支援センター	1	0.1%
地域生活支援拠点	6	0.8%
ふれあい福祉フェスティバル	109	14.0%
地域福祉フォーラム	22	2.8%
その他	4	0.5%
知っている取組はない	126	16.2%
無回答	47	6.0%
計	779	100%



「地域包括支援センター」「ボランティアセンター」「ふれあい福祉フェスティバル」が上位を占めています。社会福祉協議会が実施している事業の認知度が高いことがわかります。

問32.社会福祉協議会が行っている事業で、「充実してほしい事業」がありますか。(〇は3つ)

内訳	件数	構成比
福祉大会	19	2.0%
ふれあい福祉フェスティバル	35	3.6%
地域福祉フォーラム	15	1.6%
小・中学生福祉教育への支援	102	10.6%
福祉作文の募集	9	0.9%
ボランティアセンター	50	5.2%
災害ボランティアセンター	71	7.4%
ボランティア講座	24	2.5%
送迎サービス(福祉有償運送)	56	5.8%
サポートさむかわ	32	3.3%
小地域福祉活動(地域サロン等)	37	3.9%
ふれあい・いきいきサロン(子育てサロン等)	47	4.9%
あんしんサービス(日常生活自立支援事業)	109	11.4%
成年後見相談	19	2.0%
地域包括支援センター	174	18.1%
各種援護・サービス事業	112	11.7%
無回答	49	5.1%
計	960	100%



前回に引き続き、「地域包括支援センター」が最も多いです。

問33 みんなでつながり、ささえあいまちづくりに向けてご意見がありましたら、ご自由にご記入ください。

自由記述欄 以下回答

<p>学生時代、ドラッグストアでアルバイトをしていました。 常連さんには本当に可愛がってもらい、知り合いがたくさんできました。その多くはご老人で、アルバイトを辞めてからお会いしていないのですが風の噂で亡くなれたり、買い物に行く元気がなくなったと聞きました。 コミュニティ施設を作るのはもちろん必要かもしれませんが、しかし店に買い物に行き、店員と話す。案外それが1番双方の労力がないためいいと思います。 ここから改善できると思うことは以下です。 ・民営でスーパーを行い、利益を求めるのではなく、交流を主とする場所にする ・店に寒川で受けられるサポートを共有する →店員に知識があればお客様が困っている時、ご提案できるかもしれません。</p>	20代	女性
<p>子どもがいる世帯への支援をもっと増やして欲しい。(低所得者のみ等の縛りは無しで)</p>	20代	女性
<p>高齢者が多い町であるが故に子育て世帯への手当てを充実させて欲しい。私達には子供は居らず、具体的にどのような手当てや制度があるのかわからないが、高齢者が優遇されているのは確かだと思う。減税や手当てと言っても難しいため、交通費の補助や学用品の補助でも良いと思う。また、県営住宅の高齢化が著しく、騒がしさもある。認知症高齢者や地域福祉をお考えならそちらの方にも目を向けてみて欲しい。</p>	20代	女性
<p>役場の方がいつも優しく接して下さるのが印象的で嬉しかったです。(引っ越してくる際の手続き等)いつもありがとうございます。</p>	20代	女性
<p>些細なコミュニケーションが必要だと思います。組織を増やし責任を分担するのではなく、町民自らの意思による、積極的なコミュニケーションのとれる環境づくりが必須だと思います。何よりも、超高齢化社会を迎えるにあたり、それぞれひとりひとりの自分自身の心身含めた、健康づくりが必須だと思います。自分自身が健康で元気でなければ他人にも優しくなれません。自分自身の、あらゆる面の余裕をつくらなければならないと個人的には思います。 誰かに手を差し伸べられる余裕ある環境づくりをしたいと個人的には思っています。 何か感じていただけたなら幸いです。意見を読んでいただき誠にありがとうございました。</p>	30代	男性
<p>今の自治会は未加入の方が多くと思います。加入者と未加入者の負担の差が大きいので、また、未加入でも特に困ることは無さそうなので、自治会から脱退したいのが本音です。強制的に自治会に加入させるのもおかしいと思いますので、自治会のあり方が問われていると思います。</p>	30代	男性
<p>学生や近所の付き合いがある方はつながり、ささえあいまちづくりに参加しやすいと思いますが、私のように社会人になり県外から就職の為に引っ越してきた人たちは参加しづらいのかなと思います。企業等を巻き込んでのまちづくりを進めていくとよりつながりやすいのではないのでしょうか。</p>	30代	女性
<p>PTA活動が辛いです。会費を引き上げたりしても良いので有償化して欲しいです。</p>	30代	女性
<p>特にありません</p>	30代	女性
<p>近い将来給付金を受け取りたい。</p>	30代	男性
<p>町民の方々に信頼されるような関係を築くことが大切かと思っておりますので、まずは一人ひとりの職員の方々が真摯に対応を努めて頂ければと存じます。以前不快な思いをしたので。</p>	30代	男性
<p>地域の活動で知らない取組みも多く充実した活動をしているんだと感じた。もう少し町内の取組みに目を向けてみようと思う。</p>	30代	男性
<p>自治体や神社総代やPTAをやったことはあるが、共働きの正社員共に出張が多いので、時間的余裕がなく本当に負担でした。そもそも今の時代に合ってなく、見直しされても良いとおもう。また、自治会やPTAは、断る理由をなぜか話さないといけなくプライバシーな情報を第三者に話さないといけない理由が分からない。また、断った理由を広める人もいる。個人情報保護法がある昨今でおかしい。私はコミュニケーションに弊害があり、病気もあるがなぜ、断る理由に話さないといけないのかが分からない。お金を、払っても構わないので辞退したいし、やる方には有償でやって頂きたい。やりたくない人に無理にやらせても何もうまれないし良くならない。そもそも、共働きで働き、町に税金より多く納めて給付金などもほとんど頂いていない。それなのに、断ると共働きの当りはきつい。何がささえあいなのか意味がわからない。 自治会やPTAは行政で仕事として委託し、自治体やPTAが一切ない町寒川としたほうが、今の若い子、若い夫婦がより多く寒川に住むと思う。自治体やPTAは給料制にし、専業主婦や定年者のやりたい人がやってくればよい。そのほうが、年配者の孤立も少なくお金をもらえば、文句が出にくい。 多様性の時代にささえあいは無理がある。 後は、川の整備も海老名市、平塚市、藤沢市より遥かに遅れている。異常気象で川の氾濫の可能性が高まる中、寒川町の対策はほぼ無策。 年配者が多い町で安心して暮らせない。</p>	40代	男性

災害発生時に、地域がささえあうことを、べ自治会が主体となって進めること自体は、良いことだと思いますが、実際に活動できる人が現役を引退された方などに限定されてしまうことから、活動をサポートできるよう企業への働きかけ、本人への優遇措置、集まる場の提供(数世帯毎に共有地の提供)など自治体として取り組みに参加しやすい支援をおこなってもらえると少子高齢化でも自治体活動が継続していけるのではないのでしょうか。	40代	男性
問17にも記載したがシルバー人材センターの活用をもっと推進すべき認識。 核家族化や共働き家庭も増えており情緒に訴えボランティアに期待するのは社会的事実としてもはや破綻が明らかで、一方で健康寿命が伸びて老後の資金や労働場所確保も社会課題となっています。 例えば学校のPTA活動に駆り出される世代は世帯収入がある一方で共働きにより時間は無く、シルバー人材センターへの委託費用を共同出資した上で委託する方が全ての課題の解決になる認識です。お金を絡めるとすぐ拒否反動的な議論が出る認識ですが、ボランティアが美徳かのような先入観を排除して、適切なキャッシュフローと労働を回すことで社会全体がうまく回ることをもっと議論すべきです。	40代	男性
今は当事者ではないので想像がつかないが、いざという時に相談できる場所やどんな支援があるのか…知っておきたいとは思っているの、こんな場合はまずどこへ相談すべきか…など分かりやすく町のHPなどにあれば有難いです。(既にあるのかも知れませんが…)	40代	女性
今まであまり考えた事がありませんでした。今後のまちづくりに協力できることを考えていこうと思います	40代	男性
寒川在住歴は長いですが、あまり知らない事も多かったのでアンケートは良い機会になりました。ここ数年は転入者も多いので、そのような人に対するの周知も必要かと思えます。	40代	女性
いきなりこの様なアンケートを頂き答えたのですが、とにかく素人にはとても難しい内容だと思います。次回もあるようでしたら、もう少しかみ砕いた内容でよろしくをお願いします。	40代	女性
今はライフステージ的に、子供達の大学進学・学費のため一生懸命働く事で精一杯。親は寒川ではないし、周りに小さい子供も障がい者もおらず、自分も健康なため、あまり関わりを持つ機会もありません。ただ将来的には色々お世話になる事もあると思うので、関心は持ち続けたいと思いました。	40代	女性
身近に起きている事案ではない為、分からない事が多いし、興味を持っていない。子供が発熱などした場合、保育園等に預けられないので病児保育小学生の病児見守り等。保護者の就労支援。	40代	男性
単身高齢者に対する触れ合いが大事です。毎日話し相手が居るだけでも、状況悪化を抑止できます。特に離れて暮らす単身の親を持つ子の立場からすると触れ合いが多く、状況の報告があったりするとかなり助かるし安心します。	40代	男性
PTA活動の校外委員(集団登校時の旗振りなど)は昔のように出来ないことも多々ある。子は宝だと思うが、働く母親が増えたので補う為に、リタイヤ世帯に有償でボランティア活動をしてもらえたらコミュニティも生まれて良いと思う。	40代	女性
子育て中や年をとって車無しの移動、買い物が大変なので有償でタクシーより安く利用できるサービスがあると良いなと思います。わざわざお願いするかと考えると、やめてしまう人多いと思ってしまう。コミュニティーバスのルートや本数を増やしたり、気軽に利用できる。交通機関が増えて欲しいです。高齢になっても運動しないと生活が大変な状況を変えて頂きたいです。子育て中も大変ですが、高齢になって住み続けるのに不安があります。	40代	女性
空き地に対して、公園を充実させて下さい。(岡田3丁目に欲しい。)町全体でお菓子作り、パン作りなど、参加・雇用を創り出して欲しい。駅や道路など既成概念にとらわれずカラフルにして欲しいです。住んでいて会話になる環境から支えあい生まれるかと	40代	男性
高齢単身者の支援コミュニケーションの強化困り事のヒアリングができる環境作りなど更なる高齢者が住みやすい町づくりをお願いしたい。また若者が子供を育て易い、支援の強化、拡張を期待します。	50代	男性
近所付き合いが希薄となり、逆にご近所トラブルのほうが目立つと感じます。まずは隣近所と、いいつながりを持つ街に育てる必要があると思います。	50代	女性
町役場職員さんへの障害者別障害理解を学んでほしい	50代	男性
このアンケートを実施するお金があるなら、その分を能登地震被災地へ寄付してください。現地で必要とされる物資を送って下さい。宜しくお願いします。	50代	女性
これから高齢化社会になっていくので若い人にもっと実態を分かってもらいいろんな面で助けてもらえる町になって欲しいです	50代	女性
通院に使っている病院なのに寒川病院は救急病院なのに受けてくれた事ありません。今年早々、年始に帰省していた息子と孫が発熱。「小児科が居ない」と、どの病院も断られ結局孫は厚木まで行きました。救急の充実と寒川に住んで30年ですが、夜道がまだまだ暗いと思うので明るい寒川になるよう希望します。	50代	女性
人と人との繋がりが密になればなるほど、「逆の問題」も発生してくるのではないかとつまずき個人情報・プライバシーへの介入によるトラブル等こちらの問題の方が大きくなる気がします。どこからどこまで?の線引きが難しく感じます。	50代	女性
特にない	50代	女性

高齢化が進む中で、介護保険は誰しもうけるサービスだと思いますが、役場内の地域包括支援センターの役割が相談に行っても何も得るものが無い。ケアマネや介護施設を探す上でも、パンフレットを渡すだけで、何もわからなく相談に訪れている物へ手を差し伸べてもくれない。公平の機関なので、お勧めすることもできないとの回答。地域包括支援センターとして、あのような形では介護保険を受ける側としては相談にも行けないと思った。改善を求めます。	50代	女性
若者・子育て世代にとって魅力的な町になり、町の若さが高齢者と支えられる様になると良いと思う。	50代	男性
かるた、百人一首、工作などを通じて世代間の交流をはかる	50代	女性
高齢化社会が到来し人口減少も始まる中、互いを支えあうことが重要である事は理解できるが、自治会離れの間人間関係の希薄化や成年後見制度においてトラブル事例が散見される等、現状は大変厳しい状況にあると思われま。今後は更なる福祉教育の充実を図る事や、町内の福祉団体の育成に力を入れることが必要ではないかと考えます。	60代	男性
支えあうことは大変重要なことと思っていますが、人との繋がりを求めない、又は興味を持たない人がいるのも現実です。私自身も恐らく、いざという時は自分の事しか考えないと思っていますが、せめて余裕のある日常の中で何か人の役に立つことをしていきたいと思っています。町役場の一角に障がい者支援の作業所で作成しているグッズや作業の様子を紹介するコーナーなどを設置したらどうでしょうか。	60代	女性
現状の問題点や課題に対し、それが発生している「真」の原因をよく考えて対策を立案する事を望む。現在の寒川町は目先の原因(直接の原因)を対策している様に思える。	60代	男性
福祉活動を身近に感じ、参加したいと思える事が普通になるといいと思います。	60代	男性
・自治会は大切な機能です。最近自治会を抜ける人がたびたび見かけ、非常の場合の事などを考えると自治会には参加して欲しいです。・地震や他災害に対して、水、飲料、トイレの確保等自分自身で確保を実施しています。	60代	男性
日頃より行政及び社会福祉協議会の関係団体・機関、地域住民のボランティア、NPO団体の連携のもと、高齢者、障がい者、子供、若者など幅広く必要とする人に福祉サービスを提供している事に敬意を表します。引き続き誰もが地域社会の一員として参加できる福祉活動を展開し地域において、孤立することなく、安心して暮らすことができる福祉のまちづくりを推進していただけることを期待しております。	60代	男性
寒川町に40年住んでおりますが、町は何も変わっていません。畑をなくして新しい家が建っているだけです。今後こんな感じですか?不安です。	60代	女性
犬猫はゴミじゃない。犬猫の保護施設を作してほしい。里親に行けば障害者や老人の心のケアに繋がる。寒川猫クラブはりょうけんが狭い。寒川しっぽ村にチラシ配ったら、しっぽ村に寒川にはチラシ配るな!と代表から電話があった。じゃ犬も面倒みる!!	60代	男性
青少年・少女の健全な成長が必要だと思います。色々な親子関係、複雑な家庭環境、家庭内暴力・暴言、貧困、孤立(食事も三食食べられない子もいる?)など、一人で悩んでいる子供を地域で育てていくべきではないかと思えます。非行に走ることなく、どこか相談窓口があって手を差し伸べてあげれば、その子供も幸せだし犯罪も減り世の中も平和となっていくのではないのでしょうか?(単純ではないかもですが)子供食堂を増やしたり、老人、引きこもりの人、子供の居場所が必要ではないかと思えます。寒川にも夜間中学を開設して欲しいです。知識、低学歴なども犯罪の原因になっていないのでしょうか?	60代	女性
特にありません。	60代	男性
①様々な事象に対し、コミュニティーとしてアシストしていける人材の育成。行政等に都合の良い人材だけでは駄目で、人の痛みを感じ取れる想像力も必要。②今回の震災をどれだけ自分の地域の事として捉えて用意できるか。物資の備蓄だけでなく実際の動きをシュレージョンしておく事が必要。	60代	女性
隣人所の人達と気軽に声を掛け合い、お互いに助け合えるようになりたい。高齢者や核家族が多い中、助け合いの気持ちは大事と思う	60代	女性
現在一之宮に住んでいますが将来車を手放した時に、日々の買物に困ることが分かっています。スーパーやドラッグストアも近くになく、買物難民になりそうです。	60代	女性
町づくり支えあいをしたら、ポイント又は商品券がもらえる。	60代	男性
特にありません。	60代	女性
アンケートの選択肢から町がイメージしているものはうすすらとわかるが、実際には答えづらい。人によって意識が違うだろうし現状と想定も違うからだと思う。ポイントとして一番大きいものは高齢化だと思う。現状でも起こっているし今後も続くし、確実に起きているものだから。また、災害は災害で別の面を持っている。なので大変答えにくい。再犯防止も1つには本人(〜)の対応であり、「町」が何をするかと言われても答えるのが難しい。	60代	女性
地域福祉のプランについては他市町村のプランで良好と思われるものは寒川町においても取り入れてほしい。	70代	男性
昨年、公民館の体操をして使用した時、書類の字が汚いと、いじわるして、威張り腐って、とても嫌な思いをして、行くのが嫌になってしまった。手が痛くて字を書くのが不自由なのに、そういう嫌な係の人がいる。	70代	女性

突然唐突にアンケートが送られてきてもかかわって活動した事が無いので、きちんと回答できません。このアンケートで何を知りたいのですか？	70代	女性
地域で声をかけあい参加する機会(きっかけ)を代表者の方々が呼びかけて欲しいです	70代	女性
長年介護ヘルパーの仕事に関わってきましたが、人との接し方が一番難しいと思います。現在一人暮らしで73歳の高齢になり、繋がり、支え合う事を何かしたいと思い、道路の落ち葉掃除や週一回ゴミ出しをしています。皆さんががんばってますので応援しています。	70代	女性
問32は聞いた事がありますが具体的内容が分からないので答えられない。身近な問題として必要性を感じたら重要になると思います。従って広く活動する事が大切ではと考えます。	70代	男性
特になし	70代	女性
なし	70代	男性
福祉について良く知らない事ばかりです。色々教えてください。もう年なので。	70代	女性
今現在まだ支援を必要としませんが、この先お願いする事になったとしても個人的な事まで入り込まれるのに抵抗があるので可能な限り親族間で解決できればと考えています。行政関係の方々は威圧的に話をされる方もいて苦手です。もっと柔らかく会話をして欲しいと思います	70代	女性
今は防災についての対策強化(命の保障)を考えて欲しいです。社会福祉の重要性の推進も理解できるか、限られた予算はもっと防災に向けて欲しいです。震災などは自治体がすぐに助けに来れないと伺ってますので自己救助など、ぜひ震災対策に力を注いでください。	70代	男性
とても良い事だと思います。チャンスがあれば参加したい。	70代	女性
地域の人達が集える場所づくり(集会所等)歩いて行ける範囲ごとに。/コミュニティバスの充実/買物不便地域の解消	70代	女性
持家と賃借とのこだわりを無くして欲しい	70代	女性
大災害が起きた時長期間にわたる避難所と物資が行政にありますか。インフラは大丈夫ですか?具体策を示して欲しい。町内の初集会での皆さんの意見です。	70代	男性
今のところ問題ありませんが、今後体長面での不安はあります。	70代	男性
地域の住民、みんなが人権を重視し、愛情・友情を大切にすることが、より良い町づくりに繋がると思う。ぜひそのような啓蒙活動をお願いしたい。	70代	男性
子育て支援、子どもが急に熱を出したりして仕事を休めない時は近所の手の空いた元気な年長の人に繋いでくれる仕組みがあったらいいなと思います。ファミサポはありますが、そのもう少し気楽なもの。	70代	女性
近い将来起こるであろう災害等に関し、寒川町はどう対応し、対処するのか、策定等を町民にPRしてはどうか?	80代	男性
どこに何が有るのかも知らない。地図欲しい。	80代	女性
年齢を重ねて一人暮らしになり、また子供も仕事上離れていますのでやはり不安な毎日です。よろしく願いいたします。	80代	女性
寒川内での買物の後の家までの荷物を届けてくださるタクシー又は車を出してほしい。体の不自由な人達が多い為自分も歩いて持ち帰るのが辛いので、考えてほしい。	80代	女性
津波や河川の洪水時の避難所がわからない	80代	女性
役場の募金に行ってみて募金箱があまりに小さくて驚きました。能登地震の募金箱をもっと大きく目立つように置いて下さい。	80代	男性
自治会の役職について、組で順番に回ってくるので困っています。体力的、その他の理由で出来ない人の意見を受け入れて下さい。80歳過ぎても出来る方もいるでしょうが、私は無理です。会費は納めますが役は免除してほしいです。衛生、神社、会長役などとてもできません。組の構成にも配慮して下さい。高齢者ばかりの組で困ります。	80代	女性
いつもお世話さます。これからもよろしく願い致します。	80代	女性
町営の介護施設の充実。老人に対する福祉施設の充実。身体不自由者の器材の設置。	80代	男性